

(議長)

休憩を閉じて再開いたします。

次に「横山議員」の発言を許可します。 「横山議員」

「横山議員」

1 問目と 2 問目は関連する様な質問ですが、先ず 1 問目。

J R 江差線廃止について。

木古内から江差までの江差線の廃止が J R 側から正式に通達がありました。それについて、江差町としてはどのような対応がされているか、例えば無くなることについての広報を、不便さをいかに補っていくかという広報活動などの準備などはどうなのか、そして江差駅周辺の再開発方針はどのように考えているのか、先ずその辺を出していただきたい。

(議長)

「町 長」

「町 長」

J R 江差線廃止に伴う質問であります、行政報告でも触れましたが、1 2 月 2 0 日に開催予定の 3 町対策協議会において、J R 北海道から提示を受けた支援内容に対して、「対案」を示すこととしております。

1 点目のアクセス道路の整備関連の質問ですが、3 町による「主要道道江差・木古内線整備促進期成会」にて要請行動を実施してきており、今年度の要請行動にあたっては、渡島総合振興局函館建設管理部、従来の土木現業所ですが、及び北海道建設部に赴き、J R 江差線の廃止提示を受けたこと、また新幹線開業効果を最大限発揮するためにも「道道江差・木古内間」の早期道路整備を強く要請しております。

次に、「江差・木古内間の道路状況にかかる周知広報」のご質問ですが、新幹線開業により木古内に新駅が出来ることから江差、檜山へ通じる道路として観光振興の面でも情報の見直しや発信は不可欠な検討課題として捉えておりますので、ご理解をお願いいたします。

また、「江差駅周辺の再開発方針は」との質問であります、周辺用地の利活用問題は大きな課題として十分認識しておりますが、J R 北海道との協議内容も整っていない状況下であり、方針を示す段階には至っていないので、ご理解をいただきたいと思います。

(議長)

「横山議員」

「横山議員」

確かにこのような動きがＪＲ側から具体的に廃止の年度、１４年春と言うようなことが表明されてから、具体的に動いているんですが、例えば一番大きな問題ではインフラに関係しますアクセス道路、これの整備などはもっともっと前から、もっと積極的に進めるべきであった、一部例えば湯の岱あたりの道路などは整備されて来ている面はありますが、それから先の方の吉掘でしたかトンネルをみますと、まだまだ予定も具体的になっていないようですし、そうしますと例えば江差線が廃止になる時期に間に合うのかどうか、そういうインフラの整備に大変時間もかかることだと思いますが、そのあたりについてのもっと早くからの対応が必要だったのではないかと、それは何も一番まあ上ノ国町というところとあるいは上ノ国町と限らず檜山管内関連町村との打ち合わせをもっと早く、何年も前から強力な対応が必要だったんじゃないかなと思います。

そういうことで、果たしてこれが江差線廃止になるのに今の問題等それからアクセスの道路の問題、広報の問題、まあこれは対処のしようがあるかなと思いますがそれなど、それから江差駅周辺にしても正式にＪＲ側から話があったのはついこの間だったからということでは、町としては対応は遅すぎるのではというのが私の思いです。

こうなることはもう何年も前からこの新幹線が通ったら並行在来線がなくなり、特に木古内からこちら側は廃止になるであろうということは見込まれていた訳ですからもっと早い対応が必要だったんじゃないかと、それによって江差線、木古内からこちら側から廃止になるのにも間に合わせてこの対応策を打ち出すべきではないかと、そのためには檜山の中心町としての江差町がもっと積極的に行動すべきではなかったかなという思いがあります。

その辺についての町長のお考えをお願いしたいと思います。

(議長)

「政策推進課長」

「政策推進課長」

先ずあの、アクセス道路、町長の答弁の中でも道道江差木古内間の期成会での要望の話を申し上げましたけど、ＪＲの江差線の廃止の提示を受けたことってというのは今年の動きの中ではじめて具体的に、言葉に出して木古内・上ノ国・江差３町の町長それから議会議長さんも加わっていますけども出せた中身

であります。

ただし、この期成会、道道の期成会については10年くらい前に出来ていますので、この間についてはJRの廃止の前の段階で10年間いろいろ整備促進の要望を続けてきていると、これが一つです。

それから、吉堀トンネルのお話が出ましたのでここは言えると思いますが、実はJR廃止に伴って線形の一部改良が、設計の見直しなどがあるようなんですが、これは先般確認したところ28年度完成予定で、ですから当初予定の改良する前の予定も28年度予定だったんですけども変わらないといただいております。

それから、次にアクセスの広報の周知でございますけども、これは先ほど町長が答弁申し上げた通り、こういった仮にJR廃止がされるとすれば檜山に通じる道路がこういう風になりますよというこれは2問目でも触れると思いますが、道南圏域全体としていろんな情報の発信が必要だろうと思います。

それから跡地の、駅の跡地については、先ほど町長答弁した通りであります。以上です。

(議長)

「横山議員」

「横山議員」

特に道路などについては、こういうインフラの整備には交渉事ですから時間がかかる、それは当然のこと分かっていたんですから、この新幹線整備されるについては、それこそこれ見ますと40年ほど前ですか、北海道に新幹線を延ばすという計画があつてその際には在来線がなくなる、廃止が条件だということになっていました。

そして特にその、在来線ではないけども在来線に付随している木古内・江差間は利用率も考えて廃止になるであろうということは当然考えられていたんですから、まあ期成会、これ10年ほど前ですか、設置されているということですが仮に10年と言うのもあれですけどももっと早くから有効な対策を打っておけば江差木古内間の廃止などにもいろんな面で間になってきたんではないか、如何にもこの件については対応が遅かったんじゃないかなというのが私の意見です。これについてご返答があるのかなのか、なくても構いませんけども、そのように思います。

(副町長)

「副町長」

「副町長」

2 番目のご質問 3 番目のご質問聞いていますと、新幹線開業によって江差木古内間が廃止になるというのが規定の路線だったというご質問の主旨が根底にあるように思います。

当初、函館に新幹線が延伸する時に J R の方の言い分は江差木古内間も並行在来線であるという論理でありました。

その時に江差上ノ国自治体については江差木古内間については並行在来線ではないという反対の主張をもって J R に対峙したという、そういう歴史的な経過があります。

案の定、J R は江差木古内間は並行在来線ではないと、ただ北海道一の赤字路線だから廃止するという論理でしたのでその段階で、例えば道路の問題や今の江差駅周辺の問題を、再開発と言いましょうかね、そういう計画を私どもが示すということは、どうぞ廃止になってくださいと、そういうことを言っているに等しい訳ですから、当然そういう風な町としての立場は論理的にあり得ないということでございます。

是非そこは誤解のないようにしていただきたい。

(議長)

「横山議員」

「横山議員」

では 3 問終わりましたので、2 問目に移ります。まあ関連事項ですから。

これはもう木古内江差線に限らず、J R 新幹線が対応されてくるんですが、それについては議会の方から今年なんですがね、総務委員会の方でもいろいろ、総務産業委員会の方からも意見が出されています。

まあこういうことも意見が出されること自身が、今年出されるあたりがあれなんですが、大きく J R 木古内のアクセスだけでなく厚沢部中山峠、あるいは熊石などそういうようなルートでの対応になりますが、どのようになっていますか。

(議長)

「町 長」

「町 長」

2 問目の「新幹線開業に向けた対応策」に係るご質問であります。

先ほど答弁申し上げました道路問題もありますが、中心課題は「江差町の観光対策をどう進めていくか」であります。

この２、３年の期間において、「国道沿いサイン看板の設置、イメージキャラクターの製作、開陽丸管理棟リニューアルによる売店の開設、地元農水産物を使った商品開発や販路拡大」などに取り組んできましたが、江差追分記念大会はもとより新幹線開業も見据えた観光振興及び産業振興対策としての取り組みを行って参りました。

現在、道南圏域全体及び木古内と檜山南部による二つの協議会が立ち上がり広域観光の話し合いの場が行政及び観光協会レベルで開催されております。

これは観光ルートの開発や道南圏域観光の周知活動などの構築を協議しているものであり、広域的な観光ＰＲなどの具体策が話し合われるとお聞きしておりますので、江差町としても積極的な参画をして参ります。

町の観光対策は多岐にわたりますが、３年後の開業を見据えた観光対策は、町としても次年度から重点施策の一つとして考えており、関係団体とも協議連携し、行政としても可能な対応策を講じて参ります。

(議長)

「横山議員」

「横山議員」

今のご返答のとおり、いろいろ手は打ちつつあるということで、それもＪＲ新幹線が新しい函館駅、名称はまだまだ決定していないようですが、つながることに併せて進めていることだと思います。

それについてもいろいろな協議会、関連する町村がありますからね、確かに協議会で打たなければなりませんが、この南部檜山としましては江差町が中心地であることに違いありません。ですからもっと積極的にこれについては江差町がリードをしていくように、組織を作って行ってほしいもんだなと思っています。

今年、先ほど言いました総務産業委員会によって担当も設定されたように聞いていますが、もっと実の成るようにもっともっと前から当然対応しておかなければならない問題ですよ、いかにもＪＲから言ってきたのは今年です、いつですというような、ですからそれまでは具体的な対応はできないんですというような、まあさっきの副町長からの答弁がありましたが、するべきでないという考え方がありましたが、それはいかにも何と言うか行政としての紋切な言い方であって、影響を受けるのはこの江差町、あるいは南部檜山なんですよ。

ですからそれはもっと早い対応がなされてしかるべきだったんじゃないかな

と思っております。

それは質問と言うよりは私の意見でありまして。

(議長)

横山議員、それは要望です。質問にはなっておりません。

「横山議員」

だからそういう考え方は出来ませんでしたか。行政としてはそれしかないんですか、はっきりしたことがなければ事を起こせませんということだったんですか、もっと、内部で特別委員会なり、それは議員を含めてということでもいいですよ、そういうような対応策を取るべきだったのではないかなと思います。が、それについてのお考えをどうぞ。

(議長)

「町 長」

「町 長」

あの、横山議員の思いは私も分かりますけども、いわゆる、あなた今まで6年、7年議員やられてこのJRがらみの質問と言うのは一回もありませんでしたね。

(横山議員から「ありますよ」の声)

前にありましたか。

(横山議員から「ありますよ」の声)

いわゆる、そういうことについては私達にしてみると先取りして、そういう悲哀があるような背景を作られないという話もですね、これは私達ね、町民の立場からすると考えていかなければならないと思うんです。

先取りしなければならぬという気持ちは分かりますけども、そういう危惧されるようなことを先取りしてですね対応を考えていくという話になると、町民に対する背信行為ではないかなと。

所謂、この対応策に対して関係団体とともどもどう対応していくのかということも含めてね、協議を重ねている段階ですから私達にしてみると従来ある様なこの鉄道を檜山に無くしないようなことをそれとなく私達は働きかけてきたわけですよ。

できれば鉄道を無くしないように。先人、先輩の人たちの思いを考えればやっぱりこの鉄路と言うのはハイハイというような話で二つ返事で無くしたくないというのは私達の思いですよ。

それを先取りして鉄路を無くして江差駅前開発をやるべきだと、これは私はですね言われても当時はやれませんでしたよ。私になってから11年目ですけどもやれませんでした。

まだ未だかつて私が経験した11年の間の中で、JR江差線がどうなるんだという話は、私の記憶の中では1回か2回かしか質問がなかったはずですよ。

そういうことからして基本的には町づくりというのは町長だけがやるわけではない、議員さんたちも含めてですね、そういうことも含めて危惧されるのであればそういう環境を作って行くことが私は必要だったのではなかったのかな、まあ江差の濱谷が力不足と言われればそれまでです。

しかし私はそういうものを無くするための先取りはしたくなかった。出来るのであれば江差線は残したい、このことが前提でありましたから今3町の協議会で協議をしているという状態です。

(議長)

横山議員、JRでなくて、2問目の質問は新幹線がらみですから修正して新幹線がらみの質問をしてください。

「横山議員」

「横山議員」

議長、お言葉ですがこれは新幹線の質問なんです私としては。JR新幹線から私は良いと思うんですけどね。

分かりました。

町の行政的な考え方、さっきのその副町長の言葉にあらわれているとおり、これは行政的に言えばね四角四面に言えばそういうことなんでしょう、まだ決まってもいないことにできないんだというようなことは、これは四角四面に言えばそうなんです、しかしそれではね、こういうような例えば町政懇談会でもよく話しがありましたしね、そういう所でも出ていますが、JR側から1年前に通知があればそれ一方的にきまるものなんだというような現実があるのならば、それを見据えて早く対応すべきだったのではと言うことで、対応しては、時間のかかるものは早く対応すべきだったということの意味で、そういった訳です。これもJR新幹線問題でございます。

じゃあ3問目に移ります。

江差中学校改築について、聞くところによりますと予定よりつまり前の説明ではつまり10月中に基本設計などがあがるという話を聞いているわけですが、ちょっと遅れているということになってはいますが、それはどういうことで遅れているのか。

先ずそれをききたい。

(議長)

「教育長」

「教育長」

江差中学校の設計等の進行状況について、私の方からお答えします。

9月20日の議員の皆さん全員による社会文教常任委員会の事務調査で、基本設計の進捗状況として全体の配置、あるいは校舎・体育館の総面積や内部の平面計画等については、お知らせしたところであります。

その後、プロポーザル審査時の構想と現基本設計の内容の整合性などをさらに精査するとともに、設備関係においては、建築費にも大きく関係する暖房方式の検討などを進めておりました。また、今後の実施設計に反映させる各特別教室等の仕様について、江差中学校教諭からの要望を反映させるなどもしておりました。

これらの作業から、基本設計における建築費の概算等についてもまとまりつつありますので、今議会終了後の早い時期に、前回と同様な社会文教委員会の開催などをお願いし、細部にわたって、説明ができるものと考えております。また、ご質問の建築費と町の財政状況についても、最終的には実施設計があたりませんが、建築費の概算がまとまりましたら、その機会に説明ができるものと思いますので、ご理解をおねがいします。

(議長)

「横山議員」

「横山議員」

私が聞いていた、根本はいろいろな問題もあるけども建築費の概算が予定していたのと合わない、合っていないということですね。

そうすると、予定していた金額というものが一応こちらの方には町の方には腹積もりがあって、やっているわけです。

そうなりますと2問目で質問しようと控えましたが、建築費の概算が出なければ町の財政状況の策定ができないという前のお話しがずっとあった訳です。

しかしこれは来年の3月に、設計が終了するという予定は変わらないのでしょうか、それによって町の方の財政的な予算付け等も行なわれるのでしょうか、そうなりますと基本設計、あるいはそれに基づく予算がある程度の確定でなくても実施設計と言うものの確定でなくてもスケジュールはどのようになるか、

そしてそれは予算にどのように反映されるか、そのリミットなどもどのようになるのでしょうか、教えてください。

(議長)

「学校教育課長」

「学校教育課長」

基本設計の今の、中間の部分で、教育長からありました通り、年内の早い時期に、議会終了後の年内の早い時期にご説明申し上げるということになります。が、実施設計自体はですね、当初どおり3月下旬には完成していくという形になろうかと思えます。

財政上の取り扱いについても、新年度予算に反映すべく考えております。

「横山議員」

財政の方から。

(議長)

「総務財政課長」

「総務財政課長」

財政の所管課の立場から申しますと、当然、25年度の予算編成、今、これから最終的に詰めていくところでございます。25年度の予算に反映させるための数字、これは固まった時点ですね、従来からおっしゃっています財政状況への影響等についてはお示しできるかなと思っています。

(議長)

横山議員、いいですか。

「横山議員」

結構です。そのようによろしく願います。

(議長)

以上で「横山議員」の一般質問を終わります。